

# 新しい時代の市民協働のしくみや 次世代のまちの担い手づくりを目指す！



## なでラボ（ながくてできたてラボラトリー）

地域課題について考え、解決するための企画などを実行していこうと集まった若手市民と市役所若手職員のチーム「なでラボ」（＝「な」がくて「で」きたてラボラトリー）。今回は、「なでラボ」メンバーとして仕事以外の時間で活動する市役所若手職員と、市民メンバーにお話を伺いました。

【テーマ・キーワード】たつせ、社会貢献、居場所づくり

団体名	なでラボ	設立	2014年 4月
代表者	－	会員数	約60名
主な活動場所	西小校区共生ステーション		
主な活動内容	地域課題について考え、解決するための企画などを実行。		
その他（備考）			
ホームページ	<a href="http://www.city.nagakute.lg.jp/tatsuse/kyodoproject/nadelabo27.html">http://www.city.nagakute.lg.jp/tatsuse/kyodoproject/nadelabo27.html</a>	連絡先	たつせがある課 0561-56-0602

まずは、市役所の職員メンバーに話を聞きました。

### ■市役所と市民とのギャップを埋めていきたい。

－「なでラボ」の結成前に、市役所若手職員研修を通して「長久手おむすび隊」が結成されたと伺っています。この研修に参加する動機や参加して感じたことはありますか？

中川さん：数ある職員研修のひとつという印象でしたが、山崎亮さん<sup>※</sup>に会えるということで参加しました。何年間か市役所の仕事をしてきて、市役所と市民にギャップがあるというのは感じていたので、そこを埋めていきたいという思いがありましたね。

寺島さん：研修を通して、“地域に出てみよう”、“市民と何かやってみよう”と思えるようになったことと、実際にワークショップなどを行うことによって、合意形成のテクニックを身につけることができました。

※ 山崎亮さんとは、…

地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わり、これまでに様々なまちづくりのワークショップや住民参加型の総合計画づくりに関わる studio-L（スタジオエル）の代表を務めています。長久手市出身。

## ■市民と一緒に何かをするって楽

しい！

一次のステップとして、市民と一緒に「なでラボ」が結成されましたが、実際に市民と関わってどのように感じましたか？

中川さん：市民は打てば響く人が多い！

長江さん：そうですね。まちづくりに興味のある人が多いのもある

かもしれませんが、いろんな意見が出て、市民と何かをするって意外と楽しいなと思いましたね。



## ■市民の人とつながりができたことが財産。

ー おむすび隊から約2年半活動してきましたが、どんな瞬間にやりがいや楽しさを感じましたか？

中川さん：自分たちの趣味をテーマにプレゼンする「ラボトーク」※という企画をしているのですが、自分の趣味を語って誰かと関わることは将来の居場所づくりになると思うんですね。特に、今働き盛りのお父さんたちは将来退職したときに居場所がなくなってしまう人が多い。そんな人たちの居場所を作ることができればうれしいですね。

寺島さん：今はあんまり実感ないです（笑）。手探りでやっていて、市役所や自分の業務に生かしているか疑問に思うこともありますが、市民の方とつながりができたことはやはり財産ですね。

長江さん：若い市民が今まで参加がなかった市の事業に参加してくれるようになったのがうれしいです。

中川さん：そうですね。意見を聴きやすい市民と知り合えたのは長い目で見たらいいと思いますね。



### ○コラム：なでラボの活動その①「ラボトーク」

だれもが必ず一つは持っている知識や得意なことをシェアして、学び合い、楽しもうがコンセプト。これまでに、「靴磨き」や「ももクロ」などをテーマに開催。自分の居場所、役割が仕事と家庭以外に「まちにある」ことを実感してほしいという想いがこのプロジェクトには込められており、活動の様子を見ると皆さん生き生きといて、楽しそうです！

次に、実際に「なでラボ」が活動している場へ移動し、市民メンバーに話を伺いました。



## ■自分の子どもが将来、

長久手で暮らしたい！

と思うように…

— 率直になぜ「なでラボ」の活動に参加したのですか？

野田さん：「何のためにデザイナーになったのか」自問自答している日々の中、地域デザインの可能性への気づきと同時に、市の広報で山崎亮さんが関わるプロジェクトのことを知りました。何か運命的なものを感じ、迷わず参加しました。

浅井さん：自分の子どもが将来長久手で暮らしたい！と思えるためには何ができるのかと考えたときに、この「なでラボ」に参加したらいろんな人とつながって、さらには自分の子どもにもその関係が続けば素敵だなと思って参加しました。

## ■気がつけば“つながっている”関係。

— そのような思いで参加されて、実際「なでラボ」の活動を通して、どのように感じましたか？



野田さん：「なでラボ」を通じて自分自身がとても変わりました。参加する前は一切「まち」との関わりが無かったのですが、今では、まちで過ごす時間が多く、市の事業に関わるまでになりました。何よりいろいろな方とつながりで日々の生活が豊かになりました。

— この「なでラボ」の目的も将来の市を担う若手の市民とつながることだったと思います。

野田さん：そうですね。でも、つながろうと思ってもつながらないんです。きっかけがあって、自分が主体的にできるものを見つけ、動くことで気づけば周りの人とつながっている。つながりは後からついてくるものだと思います。

### ○コラム：なでラボの活動その②「なでラボ DAY」

月に1回、なでラボの情報共有、意見交換、学び等の場として開催。今回取材させていただいた時は、来年度以降のなでラボについて活発な意見が交わされていました。時には辛辣な意見も飛び出し、ピリピリした雰囲気も……。ただ、言い換えればそれだけ何でも言い合える関係性で、なでラボメンバーの絆の強さを感じました。

## ■「地域活動」だと思ってやってない。気がつけば“つながっている”関係。

### ー 浅井さんはこの活動に参加してどう感じていますか。

浅井さん：例えば、ママさんたちが集まるランチ会なんかも地域活動だと思うんですよ。でも、それって誰も「地域活動」だと思って集まっていないですよ。この活動もそうだと思うんですよ。職員は成果を求められるので大変かもしれないですけど、こうやって集まって話して、長く続く関係と少しずつでも広がっていく関係であればそれは立派な地域活動ではないかな、と。



## みつけた、幸せのかけら！

### ○共有（シェア）・賛同！

人口や税収等、これから減少していく時代の中で様々なものを「共有（シェア）」していくことは必要不可欠ではないかと思えます。また、その「共有（シェア）」にはいろんな場面で賛同してくれる人がいることも必要ではないでしょうか。

### ○サードプレイス！

「仕事と家庭以外に居場所があるか」と問われたとき、どれだけの人が「ある」と答えられるのでしょうか。今後、幸せを考えていく一つのキーワードになりそうです。

### ○毎月1人ずつ集まれば、30年後には400人！！

インタビュー時の野田さんの言葉。まちづくりはすぐにできるものではなくて、長い時間をかけてできていくものだと改めて感じます。

## 編集後記

市民と協働して活動するというのは、この「幸せ実感広め隊」も同じです。最初はみんな手探りの状態でわからないままやっている。でも、少しずつみんなと話していくことで先が見えてくるものもあります。なでラボのメンバーの皆さんは、素直に意見を言い合える関係性で素晴らしいと思いました。

まだまだ、なでラボも発展途中。10年後、20年後、「気づいたら、ここが居場所になってた！」。多くの市民がそう言える日が来ることを願っています。

取材データ ■日時：平成27年12月16日（水）、17日（木）

■場所：市役所及び西小校区共生ステーション

■担当：Aチームつながり隊